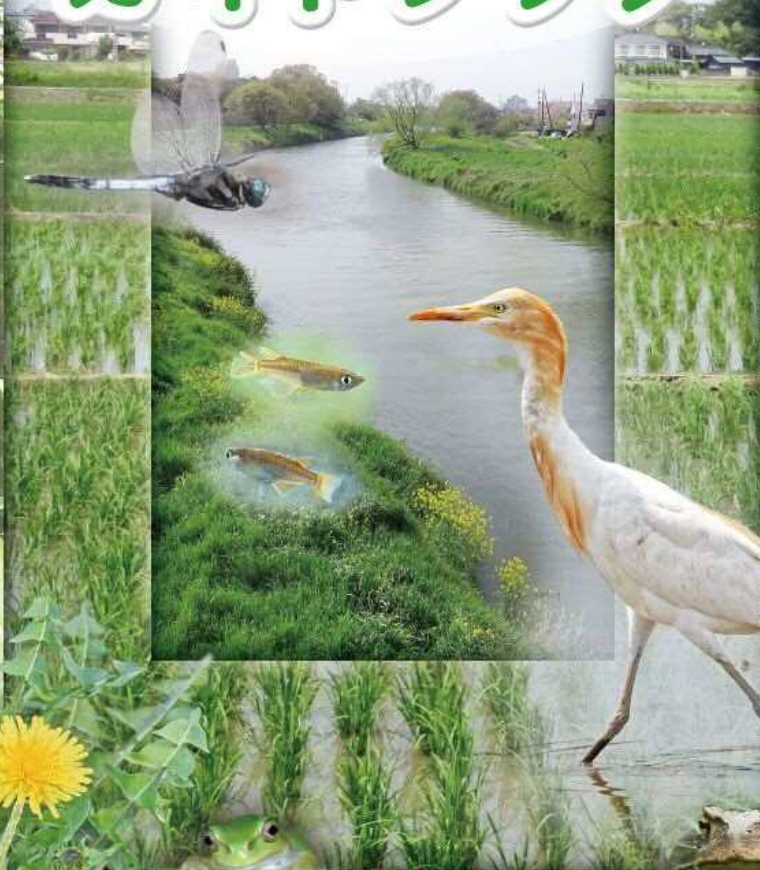




# 越谷市いきもの調査 2017 - 2020 ガイドブック



越谷市



## もくじ

●はじめに	1
●調査の方法	
1 地区の分け方	2
2 環境の分け方	3
3 いきものログ	4
4 調査の流れ	6
5 服そうや持ちものなど	7
●調べる生きもの	8
き（樹木）	10
くさ（草本）	11
とり（鳥類）	15
■コラム「シラコバトの数が減っています」	23
むし（昆虫類）	24
はちゆう類	34
りょうせい類	36
さかな（魚類）	37
かい（貝類）	38
ほにゆう類	39
■コラム「外来生物と希少種」	40
■コラム「温暖化（気候変動）と生物多様性」	41
●いままでの「ふるさといきもの調査」の結果	42
●調査ノート	44

### 監修・写真提供（敬称略・50音順）

本書の作成にあたり、以下の皆様にご協力をいただきました。

荒井堅一（向井千秋記念子ども科学館）、飯島眞、内山裕司、斉藤光明、藤田宏之（埼玉県立川の博物館）、藤原寛治、古谷愛子、山部直喜、いきもの写真コンクール応募者の皆様

表紙デザイン：古谷愛子

## ●はじめに

越谷市では、平成9年度から5年ごとに、市民の参加による生きもの調査「越谷市ふるさと生きもの調査」を行ってきました。これまでの4回の調査によって、指標生物（環境のめやすとなる生きもの）のすんでいる場所やうつりかわりを知ることができました。しかし、調査を始めて20年が過ぎ、市内の生きもの種類や数、すんでいる環境も大きく変わってきています。

そこで、これまでの調査結果をいかしながら、調べる生きものや調べ方を考え直して、新しい調査を行うこととしました。この「越谷市いきもの調査2017-2020」は平成29年度から令和2年度までの4年間をかけて行いますが、調査への参加をきっかけに、市民の皆さんが直接自然環境に触れ、生物を観察することで、身近な環境への興味・関心を深めてもらえれば幸いです。



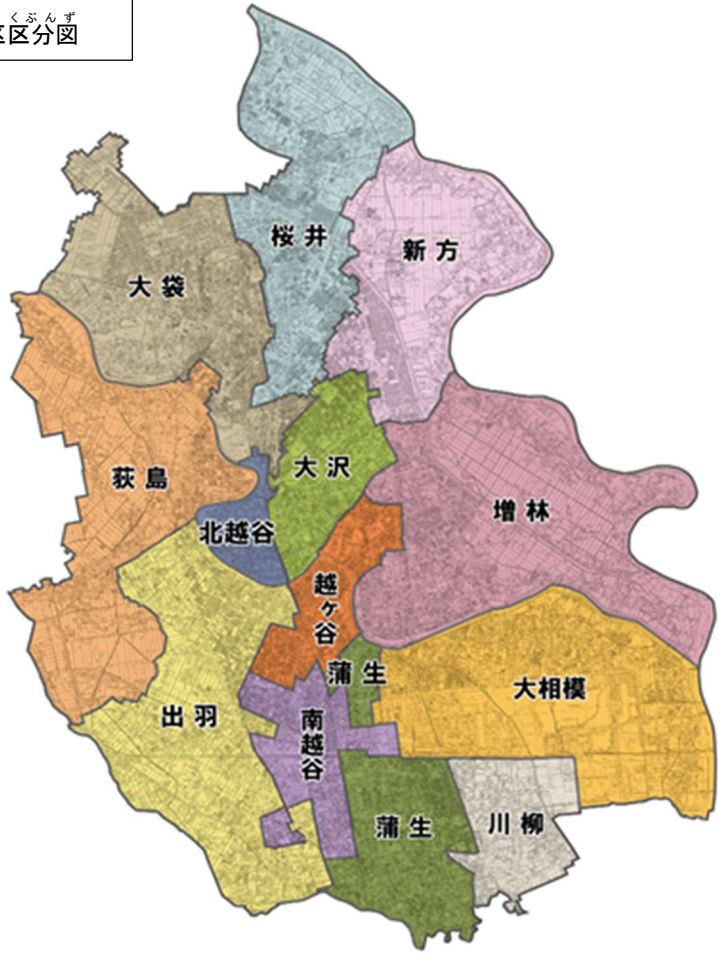
ちょうさ ほうほう  
● 調査の方法

この調査では、50種類の生きものを、見つけた地区別、環境別に記録します。また、用紙による報告以外に、インターネット上のシステム「いきものログ」から報告もできます。

1 地区の分け方

越谷市では、13のコミュニティ区域（公民館区）を基本的な単位として、地域活動のほか、都市計画や緑化計画などのまちづくりを進めています。この調査でも、13地区別に発見情報をまとめることにより、それぞれの地区の環境がどうなっているか考える材料とします。

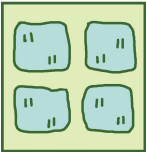
ちくぐんず  
地区区分図



2 環境の分け方

市内の主な環境を次の7種類に分けました。どのような環境に生きものがいたかを調べることによって、生きものの暮らしを考えるとができます。

**たんぼ**  
 水をはってイネやクワイを育てているところ




**畑・草地**  
 野菜や果物を育てているところ。また、地面が広く草で覆われているところ



**水路・河川**  
 用水路や川など。堤防や堤防沿いの林(河畔林)も含まれます



**樹林地**  
 屋敷林や雑木林、神社・お寺の林、宮内庁 鴨場、工業団地の緑地帯など



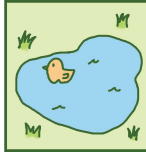
**公園**  
 都市公園のほか、小規模な児童遊園やふれあい公園など



**住宅地**  
 住宅や店が並んでいるところ。学校や公共施設、街路樹、駅前も含まれます



**調節池**  
 川の水を引き込んで洪水を防ぐ池。レイクタウンや大吉にある。西大袋、東越谷にある開発による調整池も含まれます




### 3 いきものログ

#### 《いきものログとは?》

いきものログは、環境省が運用している生きものの情報を収集・提供するインターネット上のシステムです。環境省をはじめとする国の機関、県や市町村、専門家、市民のみなさんなど様々な方が利用できます。「越谷市いきもの調査」でも、このシステムを利用して報告の集計を行います。

生きものの情報の報告は、パソコンからできますが、専用アプリをダウンロードしてスマートフォンからも登録・報告することができます。



なお、パソコンやスマートフォンを持っていない、操作がむずかしいので利用できないという方は、いきものログでなく、用紙に記入し郵送等の方法で報告していただけます。

#### 《報告方法の概要》

##### ① 確認年月日

確認年月日 **必須** 2017 年 5 月 22 日

登録した写真にexif情報がある場合、自動的に「確認年月日」が地図上に反映されます。確認年月日がない場合、操作してください。

##### ② 生物名

和名入力か学名入力どちらか必ず入力して下さい。 **必須**

和名

学名

##### ③ 確認数

確認数か出現ステータスどちらか必ず入力して下さい。 **必須**

「確認数」を選択し、数が正確にわからない場合は、「カウント補足」を選択して下さい。

「出現ステータス」を選択した場合は、「確認数」は登録されません。

※「出現ステータス」とは、調査時に調査対象の生きものが確認されたかどうかを記録した項目です。

出現ステータス「あり」：調査対象種の現存が確認された。

出現ステータス「なし」：調査対象種の現存が確認されなかった。

確認数  カウント補足

出現ステータス

#### ④ 確認場所

##### 場所を指定する **必須**

生物を確認した場所を入力してください。登録した写真にexif情報が含まれる場合、自動的に「位置情報」が地図上に反映されます。

位置情報がない場合や、修正したい場合に操作してください。世界測地系(日本測地系2000)に従った経緯度を入力してください。

を入力します。

- 登録した写真に位置情報が添付されていれば自動的に位置情報が反映されます
- いきものログに登録すると市の調査状況の確認ができます
- いきものログに登録された他の調査や情報の検索ができます

#### 《登録の方法》

この調査では、調査年度ごとに市が「越谷市いきもの調査〇〇年」として団体登録します。いきものログでの報告を希望する方は、次の手順での登録をお願いします。

##### ① いきものログにユーザ登録をする

(登録すると、いきものログの一般的な利用ができます)

##### ② 登録が完了したら、市へ登録したメールアドレスを連絡する

##### ③ 市から「越谷市いきもの調査」の団体への招待メールが送られる

##### ④ 招待メールの指定された URL にアクセスし、ログイン後、承認をおこなう

※団体への参加登録をしないと、「越谷市いきもの調査」へ報告が登録できません。必ず事前に団体登録を行ってください。

#### 【招待メールの例】

いきものログ 団体への招待のお知らせ

今日 18:18

\*\*\*いきものログ 団体への招待のお知らせ\*\*\*

■■■■様

越谷市様より、(団体)■■■■調査への招待がありました。  
参加される場合は、ログイン後下記URLにアクセスし、承認を行ってください。

<https://ikilog.biodic.go.jp/GroupInvitationList>

いきものログの詳しい利用方法は、

いきものログ HP (<https://ikilog.biodic.go.jp/>) をご覧ください。

## 4 ちょうさ なが 調査の流れ

### 《調査期間》

この調査は平成29年(2017年)から令和2年(2020年)までの間、季節(3ヶ月)ごとに行います。また、季節によって見られる生きものがちがうため、それぞれの回で調査する生きものを変えています(詳しくは8ページをご覧ください)。

		平成29年度(2017年度)											
第1回		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
夏期					← 調査期間7/1~9/30 →								
		平成30年度(2018年度)											
第2回		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋期								← 調査期間10/1~12/31 →					
		平成31年度(2019年度)											
第3回		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
冬期											← 調査期間1/1~3/31 →		
		平成32年度(2020年度)											
第4回		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春期		← 調査期間4/1~6/30 →											

※第3回と第4回は期間が連続しているため、調査員の募集はまとめて行います。

### 《調査手順》

#### ① 調査の準備

- このガイドブックなどで調べる生きものについて予習します。
- 調査の場所、日にち、時間を決める。生きものの種類によって見つけやすい場所や時間などがあるので、探したい生きものによって、場所や時間を決めておくと良いです。
- 調査する場所が13地区のどの地区か確認する(地区の説明や地図は2ページにあります)。また、調査する場所の地図を持っていると、発見場所が記録しやすくなります。

#### ② 調査

(記録するもの)

- 見つけた場所の名前(●●公園など)や目印(●●ビルの前など)
- 見つけた場所の環境(田んぼ、公園など ※3ページに説明があります)
- 生きものの数(●匹、●本、●平方メートル~植物)など
- 生きものの様子(●をしていた、花が咲いていた、木にとまっていた)など



## (写真)

- ・できるだけ写真を撮影してください。写真によって生きものの種類が確認でき、発見したときの様子もわかりやすくなります。

## ③報告

調査結果は、いきものログに登録した方はログイン後、「越谷市いきもの調査」の報告フォームから、それ以外の方は配布された報告書で環境政策課まで報告をしてください

報告期間は調査開始日から調査期間終了後1ヶ月まででお願いします

## 5 服そうや持ちものなど(天気や気温にあった服そうを選んでください)

### 服そう

ぼうし

ながそで

ながズボン

リュックサックなど両手<sup>りょうて</sup>が使えるいれもの  
歩きやすく、底<sup>そこ</sup>がしっかりした靴<sup>くつ</sup>



### 持ちもの

(もっていくもの)

ガイドブック

鉛筆<sup>えんぴつ</sup>やペン

調査員証<sup>ちようさいんじよう</sup>

(あるとよいもの)

カメラ (スマートフォン)

水とう

メモ帳<sup>ちよう</sup>

虫めがね<sup>むし</sup>や双眼鏡<sup>そうがんきよう</sup>

軍手<sup>ぐんて</sup>

### 注意

- ・川や用水路に近づきすぎない(中に入ってははいけません)
- ・小さい子どもは必ず大人といっしょに出かける
- ・ハチやアライグマなど危険な生きものに近づかない
- ・田んぼや畑、民地、空き地などに勝手に入らない
- ・生きものを捕まえたり、花をとったりせず、その場で観察する
- ・調査員証は名札ケースなどに入れ、見えるようにする

● 調べる生きもの (調査期間別)

全 50 種

第1回(H29.7~9月)30種

番号	分類	生きもの名前
1	樹木 (ヤナギ科)	ヤナギ類
2	樹木 (カバノキ科)	ハンノキ
3	草本 (イネ科)	ヨシ
4	草本 (タデ科)	ミゾソバ
5	草本 (スミレ科)	スミレ類
6	草本 (ゴマノハグサ科)	キタミソウ
7	草本 (ゴマノハグサ科)	ムラサキサギゴケ
8	草本 (ウリ科)	アレチウリ
9	草本 (キク科)	カントウヨメナ
10	草本 (キク科)	在来タンポポ
11	鳥類 (カモ科)	カルガモ
12	鳥類 (カモ科)	オナガガモ
13	鳥類 (サギ科)	アマサギ
14	鳥類 (サギ科)	コサギ
15	鳥類 (クイナ科)	オオバン
16	鳥類 (カモメ科)	ユリカモメ
17	鳥類 (カモメ科)	コアジサシ
18	鳥類 (カワセミ科)	カワセミ
19	鳥類 (キツツキ科)	コゲラ
20	鳥類 (モズ科)	モズ
21	鳥類 (シジュウカラ科)	シジュウカラ
22	鳥類 (ヒバリ科)	ヒバリ
23	鳥類 (ツバメ科)	ツバメ (巢)
24	鳥類 (メジロ科)	メジロ
25	鳥類 (ヨシキリ科)	オオヨシキリ
26	鳥類 (ヒタキ科)	ツグミ
27	昆虫 (シロチョウ科)	モンシロチョウ
28	昆虫 (シロチョウ科)	スジグロシロチョウ
29	昆虫 (アオスジアゲハ科)	アオスジアゲハ
30	昆虫 (ナガサキアゲハ科)	ナガサキアゲハ
31	昆虫 (ツマグロヒョウモン科)	ツマグロヒョウモン
32	昆虫 (ミドリシジミ科)	ミドリシジミ
33	昆虫 (コクワガタ科)	コクワガタ
34	昆虫 (セミ科)	ヒグラシ
35	昆虫 (セミ科)	クマゼミ
36	昆虫 (カマキリ科)	カマキリ類
37	昆虫 (トンボ科)	シオカラトンボ
38	昆虫 (ハグロトンボ科)	ハグロトンボ
39	昆虫 (イナゴ科)	イナゴ類
40	昆虫 (バッタ科)	ショウリョウバッタ
41	昆虫 (バッタ科)	トノサマバッタ
42	昆虫 (クビキリギス科)	クビキリギス
43	は虫類	ヘビ類
44	は虫類	カメ類
45	両生類 (トウキョウダルマガエル科)	トウキョウダルマガエル
46	両生類 (ニホンアマガエル科)	ニホンアマガエル
47	両生類 (アズマヒキガエル科)	アズマヒキガエル
48	魚 (メダカ科)	メダカ
49	貝	タニシ類
50	ほ乳類 (イヌ科)	タヌキなど

番号	生きもの名前
3	ヨシ
4	ミゾソバ
8	アレチウリ
11	カルガモ
14	コサギ
17	コアジサシ
18	カワセミ
19	コゲラ
20	モズ
21	シジュウカラ
23	ツバメ (巢)
24	メジロ
25	オオヨシキリ
27	モンシロチョウ
28	スジグロシロチョウ
29	アオスジアゲハ
33	コクワガタ
34	ヒグラシ
35	クマゼミ
36	カマキリ類
37	シオカラトンボ
38	ハグロトンボ
39	イナゴ類
40	ショウリョウバッタ
41	トノサマバッタ
43	ヘビ類
44	カメ類
45	トウキョウダルマガエル
46	ニホンアマガエル
50	タヌキなど

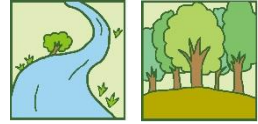


# 1 ヤナギのなかま

調査期間 第2回(平成30年10～12月)



み かんきょう  
見つけられる環境



すいぶん おお ぼしよ は  
水分の多い場所に生  
えます

たか さ ひく き たか き おお しゆるい  
高さ 低い木から高い木まで多くの種類があります(シダレヤナギは15mくらいまで)  
とく ちゆう らくようじゆ ふゆ は おお  
特徴 落葉樹(冬に葉が落ちます)

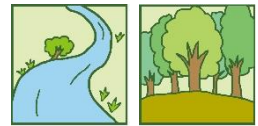
よく見 かける葉の細長いシダレヤナギのほか、葉が丸いヤナギもあります

# 2 ハンノキ(カバノキのなかま)

調査期間 第2回(平成30年10～12月) 第3回(令和2年1～3月)



み かんきょう  
見つけられる環境



ひく とち しめ  
低い土地で湿ったと  
ころに生えています

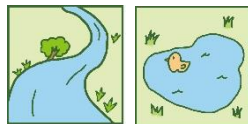
たか さ 15mくらいまで  
とく ちゆう らくようじゆ ふゆ は おお  
特徴 落葉樹(冬に葉が落ちます)  
が つ ほそなが こつかつしよく ふさ  
2～3月に細長い黒褐色の房をつけます

### 3 ヨシ(イネのなかま)

調査期間 第1回～第4回すべて



み つけられる環境



大きさ 草2～3m、葉は長さ20～50cm・幅2～4cmで細長い

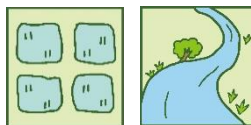
特徴 まとまって生えていることが多く、秋にホウキのような形にこまかい花が多数つきます

### 4 ミゾソバ(タデのなかま)

調査期間 第1回(平成29年7～9月) 第2回(平成30年10～12月)



み つけられる環境



田のあぜや水辺の  
やや湿ったところに  
生えています

大きさ 草30～70cm、花約6mm

特徴 7～10月に先端が紅紫色、根元が白色の花が咲きます

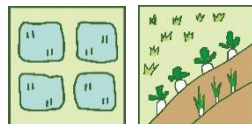
葉が牛の顔の形に似ているため、「うしのひたい」とも呼ばれています

## 5 スミレのなかま

調査期間 第4回(令和2年4~6月)



みつけられる環境



ひあたりのよい場所に生えています

大きさ 草7~11cm 花2~2.5cm

特徴 4~5月に濃い紫色の花をつけます

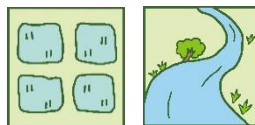
葉はすべて根元から生え、柄にはヒレのような翼(よく)がついています

## 6 キタミソウ(オオバコのなかま) ●希少種

調査期間 第2回(平成30年10~12月) 第3回(令和2年1~3月)



みつけられる環境



市内では、葛西用水や古利根堰などの用水が引いた後の湿った場所で見られます

大きさ 草2~5cm、花1~2mm

特徴 10月と3月ごろ白い花が咲きます

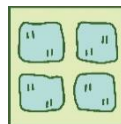
非常に小さな植物で、葉がスプーンのような形をしています

## 7 ムラサキサギゴケ(ゴマノハグサのなかま)

調査期間 第4回(令和2年4~6月)



みつけられる環境



田のあぜなどのや  
や湿ったところに生  
えています

大きさ 草5~10cm、花1.5~2.0cm

特徴 4~5月に紅紫色で唇形の花をつけます

## 8 アレチウリ(ウリのなかま) ● 特定外来生物

調査期間 第1回(平成29年7~9月) 第2回(平成30年10~12月) 第4回(令和2年4~6月)



みつけられる環境



市内のほとんどの  
河川敷で見られます

大きさ 草(つる植物)、花 約1cm

特徴 8~9月に黄白色の花をつけます

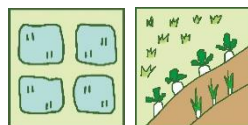
地面や他の植物をおおいつくように生えています

## 9 カントウヨメナ(キクのなかま)

調査期間 第2回(平成30年10~12月)



み つけられる環境



田のあぜなどのや  
や湿ったところに生  
えています

大きさ 草50cm~1m、花約3cm

特徴 9~10月に淡い青紫色の花が咲きます

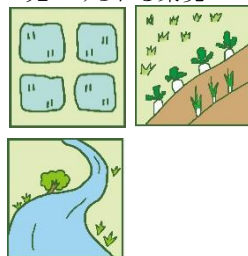
野菊のなかまで、だ円形の葉のふちがギザギザになっています

## 10 在来タンポポ(キクのなかま)

調査期間 第3回(令和2年1~3月) 第4回(令和2年4~6月)



み つけられる環境



大きさ 草20~30cm

特徴 3~5月に黄色い花をつけます

セイウタンポポとのちがいを※に気をつけてください

※花弁を取り巻く総苞片が、セイウタンポポは反り返るように下向きに対して、在来タンポポは上向きになっています

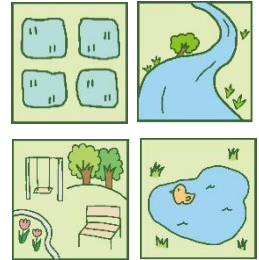


## 11 カルガモ(カモのなかま)

調査期間 第1回～第4回すべて



み つけられる環境



大きさ オス63cm、メス53cm

特 徴 とく ちょう 留鳥(1年中日本にいます)

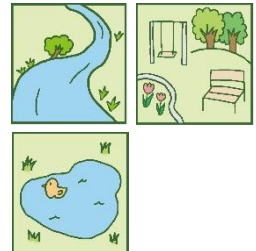
かお 顔に2本の黒褐色の線があり、くちばしは黒色で先端は黄色です

## 12 オナガガモ(カモのなかま)

調査期間 第3回(令和2年1～3月)



み つけられる環境



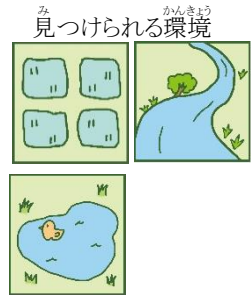
大きさ オス75cm、メス53cm

特 徴 とく ちょう 冬鳥

た 他のカモと比べて尾が長くなっています

## 13 アマサギ(サギのなかま)

調査期間 第4回(令和2年4~6月)



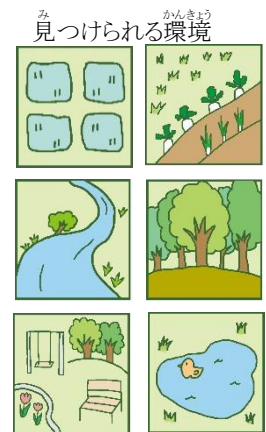
大きさ 50cm

特徴 なつどり 夏鳥(あたたかい地方では1年中見られます)

かゆ ぜんたい はくしよく 冬は全体が白色ですが、夏には頭から胸がだいたい色になります

## 14 コサギ(サギのなかま)

調査期間 第1回~第4回すべて



大きさ 61cm

特徴 りゅうちよう いちねんじゅうにほん 留鳥(1年中日本にいます)

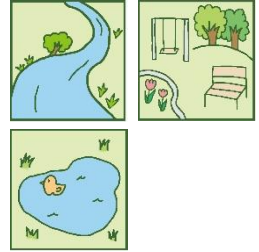
ぜんたい はくしよく あし こくしよく ゆび きいろ 全体が白色で、くちばしと足は黒色、指は黄色です

## 15 オオバン(クイナのなかま) ●<sup>きしょうしゆ</sup>希少種

調査期間 第2回(平成30年10~12月) 第3回(令和2年1~3月)



み かんきょう  
見つけられる環境



大きさ 39cm

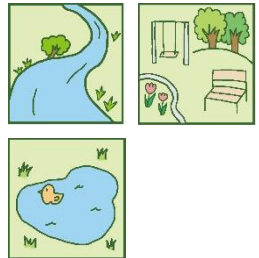
特徴 <sup>りゆうちう いちねんじゆにほん</sup>留鳥(1年中日本にいます)  
<sup>からだ くろ ひたい しろ</sup>体は黒く、くちばしと額が白くなっています

## 16 ユリカモメ(カモメのなかま)

調査期間 第2回(平成30年10~12月) 第3回(令和2年1~3月)



み かんきょう  
見つけられる環境



大きさ 40cm

特徴 <sup>ふゆどり</sup>冬鳥  
<sup>あし あか ぜんたい しろ からだ</sup>くちばしと足が赤く、全体に白っぽい体をしています

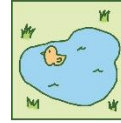
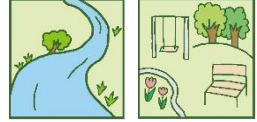
## 17 コアジサシ(カモメのなかま) ● 希少種

きしょうしゆ

調査期間 第1回(平成29年7~9月) 第4回(令和2年4~6月)



み かんきょう  
見つけられる環境



大きさ 28cm

とく ちよう なつどり  
特徴 夏鳥

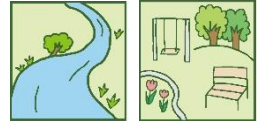
すいめんじょうくう と まわ さかな つか  
水面上空を飛び回り、ホバリングやダイビングをして魚を捕まえます

## 18 カワセミ

調査期間 第1回~第4回すべて



み かんきょう  
見つけられる環境



大きさ 17cm

とく ちよう りゆうちよう いちねんじゆうにほん  
特徴 留鳥(1年中日本にいます)

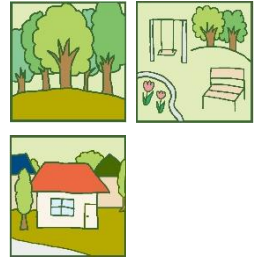
くちばしがながく、せなかはつばき あたま みどりいろ わね はら いろ  
くちばしが長く、背中はコバルトブルー、翼と頭は緑色、胸から腹はだいたい色です

## 19 コゲラ(キツツキのなかま)

調査期間 第1回～第4回すべて



みつけられる環境



大きさ 15cm

特徴 留鳥(1年中日本にいます)

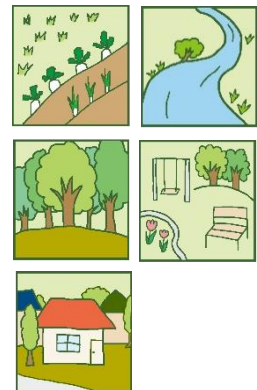
体は褐色で背中と翼に白い横じまがあります

## 20 モズ

調査期間 第1回～第4回すべて



みつけられる環境



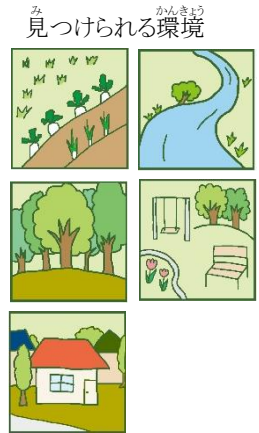
大きさ 20cm

特徴 留鳥(1年中日本にいます)

虫やトカゲなどの獲物を枝などに突き刺しておく「はやにえ」という習性があります

## 21 シジュウカラ

調査期間 第1回～第4回全て



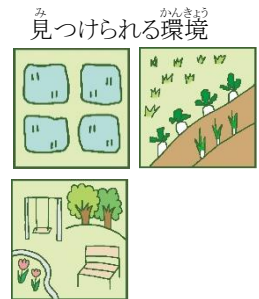
大きさ 14.5cm

とく ちよう 特徴 留鳥(1年中日本にいます)

ほほのあたりが白く、胸から腹までネクタイのような黒い線があります

## 22 ヒバリ

調査期間 第3回(令和2年1～3月) 第4回(令和2年4～6月)



大きさ 17cm

とく ちよう 特徴 留鳥(1年中日本にいます)

はる なつ 春から夏にかけて空高くまいあがり、飛びながらさえずります

## 23 ツバメ(ツバメの巣)

調査期間 第1回(平成29年7～9月) 第3回(令和2年1～3月) 第4回(令和2年4～6月)



み 見つけられる環境



じゅうたくのきしたなどにす  
住宅の軒下などに巣  
を作ります。なるべく  
す巣を見つけて報告し  
てください

大きさ 17cm

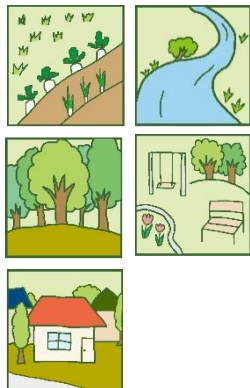
とく 夏鳥 頭と背中は黒色で、尾は2本に分かれています  
特徴 夏鳥 頭と背中は黒色で、尾は2本に分かれています  
す 巣はおわん型で、土と枯れ草で作られています

## 24 メジロ

調査期間 第1回～第4回全て



み 見つけられる環境



大きさ 11.5cm

とく 留鳥(1年中日本にいます)  
特徴 留鳥(1年中日本にいます)  
きみどりいろのちよつと太めの体形で、目のまわりが白くなっています

## 25 オオヨシキリ

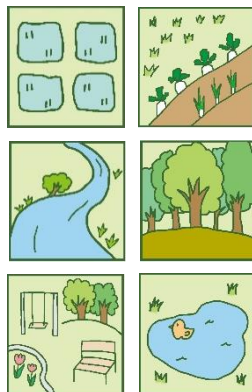
調査期間 第1回(平成29年7~9月) 第4回(令和2年4~6月)



大きさ 18.5cm

特徴 <sup>なつどり</sup>夏鳥  
<sup>ぜんしん</sup>全身が<sup>うす</sup>薄い<sup>ちやいろ</sup>茶色で<sup>めだ</sup>目立ちません

み つけられる環境 <sup>かんきょう</sup>



<sup>はら</sup>ヨシ原を<sup>せい</sup>生活の場と<sup>ば</sup>しています

## 26 ツグミ

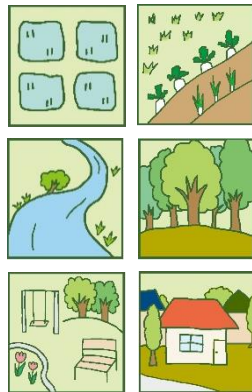
調査期間 第2回(平成30年10~12月) 第3回(令和2年1~3月)



大きさ 24cm

特徴 <sup>ふゆどり</sup>冬鳥  
<sup>いろ</sup>クリーム色の<sup>まゆ</sup>まゆ、<sup>むね</sup>胸に<sup>くろ</sup>黒いポツポツがあり、<sup>つばき</sup>翼は<sup>くりいろ</sup>栗色です

み つけられる環境 <sup>かんきょう</sup>



<sup>あか</sup>明るく<sup>ひら</sup>開けた<sup>ばしよ</sup>場所で  
<sup>み</sup>よく見られます



## ■ シラコバトの数が減っています

シラコバトは、ハトのなかまで、1年中日本にいる留鳥です。以前は越谷でも多く見られ、市の鳥や県民の鳥に選ばれています。また「越ヶ谷のシラコバト」として国の天然記念物にも指定されています。

しかし、平成12年頃からシラコバトの生息数が減っており、平成24年度の越谷市ふるさといきもの調査では年間発見数が27件、平成27年度の埼玉県生息状況調査(越冬期)では県内で生息が確認された数は103羽となっています。

### シラコバト



大きさ 32cm

特徴 体形が細く、首に黒いもようがある

鳴き声 「ポポーポ、ポッポロロー」

### 市内で見られるハト



キジバト 大きさ 33cm

鳴き声 「ゼゼッポポー」



ドバト 大きさ 33cm

鳴き声 「クルッポー」

越谷市内では、野生のシラコバトはほとんど見られなくなりましたが、大吉にあるキャンベルタウン野鳥の森では、シラコバトを飼育しており、観察できるようになっています。

生きもの調査の報告とあわせて、シラコバトの発見報告も募集しています。キジバトやドバトとまちがえやすいので、なるべく写真を撮影して報告してください。



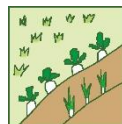
野鳥の森のシラコバト

## 27 モンシロチョウ(シロチョウのなかま)

調査期間 第1回(平成29年7~9月)第2回(平成30年10~12月) 第4回(令和2年4~6月)



みつけられる環境



オス

大きさ 2~3cm

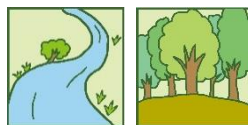
特徴 成虫は3月から11月に見られます  
はねが白く、黒いスジはあまり目立ちません

## 28 スジグロシロチョウ(シロチョウのなかま)

調査期間 第1回(平成29年7~9月)第2回(平成30年10~12月) 第4回(令和2年4~6月)



みつけられる環境



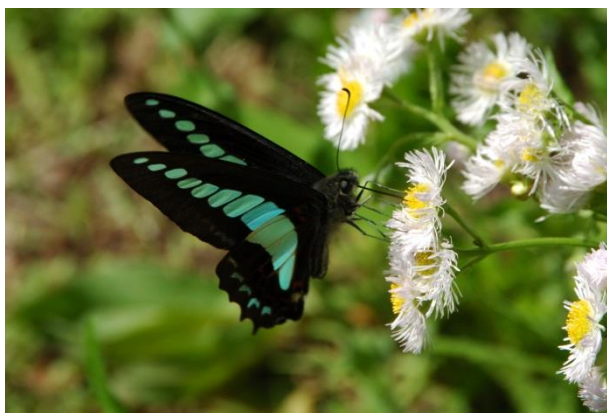
メス

大きさ 2.4~3.5cm

特徴 成虫は4月から10月に見られます  
モンシロチョウと似ていますが、はねに黒いスジがあり、ひとまわり大きいです

## 29 アオスジアゲハ(アゲハチョウのなかま)

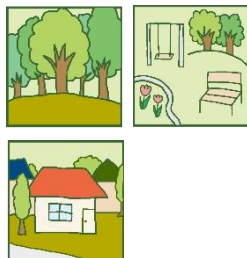
調査期間 第1回(平成29年7～9月) 第4回(令和2年4～6月)



大きさ 3.2～4.5cm

特徴 成虫は4月から9月に見られます

み かんきょう  
見つけられる環境



## 30 ナガサキアゲハ(アゲハチョウのなかま) ● 温暖化指標

調査期間 第2回(平成30年10～12月)

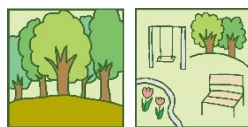


大きさ 11～12.5cm

特徴 成虫は5月から10月に見られます

クロアゲハと似ていますが、はねのつけ根に赤い斑紋があります

み かんきょう  
見つけられる環境



## 31 ツマグロヒョウモン(タテハチョウのなかま) ● 温暖化指標 おんだんかしひょう

調査期間 第2回(平成30年10~12月)

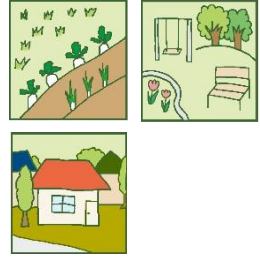


オス



メス

み 見つけられる環境 かんきょう



大きさ 2.7~3.6cm

特徴 とく ちゆう 成虫は4月から11月に見られます せいちゆう がつ から がつ み

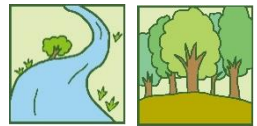
## 32 ミドリシジミ(シジミチョウのなかま) ● 希少種 きしょうしゆ

調査期間 第4回(令和2年4~6月)



オス

み 見つけられる環境 かんきょう



ようちゆう 幼虫がハンノキを食 た べるため、ハンノキ のまわり のまわりでよく見られます

大きさ 3.7~3.8cm

特徴 とく ちゆう 成虫は6月から8月に見られます せいちゆう がつ から がつ み

さいたまけん けん ちゆう してい 埼玉県の「県の蝶」に指定されています

### 33 コクワガタ(クワガタムシのなかま)

調査期間 第1回(平成29年7～9月) 第4回(令和2年4～6月)

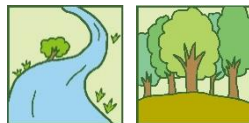


オス



メス

み つけられる環境



ぞうきばやし 雑木林などで見られ、  
成虫は夜行性で、クスギなどの樹液を吸っています

大きさ 2～4.5cm

特徴 成虫は6月から9月に見られます

### 34 ヒグラシ(セミのなかま)

調査期間 第1回(平成29年7～9月)



み つけられる環境



大きさ (はねの先まで)4.5～6.2cm

特徴 成虫は7月から9月に見られます

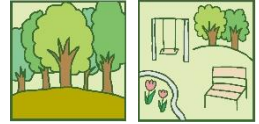
明け方や夕方の気温の低い時間に「カナカナ」と鳴きます

## 35 クマゼミ(セミのなかま) ● おんだんかしひょう温暖化指標

調査期間 第1回(平成29年7~9月)



み見つけられる かんきょう環境



大きさ (はねの先まで) 6~6.5cm

特徴 とく ちよう せいちゆう がつ がつ み 成虫は7月から9月に見られます

ごぜんちゆう きかい おお こえ な 午前中だけ「シャーシャー」という機械のような大きな声で鳴きます

### そのほか しない み市内で見られるセミ



アブラゼミ

(大きさ)

6cm

(鳴き声)

ジージー



ニイニゼミ

(大きさ)

3.5cm

(鳴き声)

チーチー



ツクツクボウシ

(大きさ)

4.3~4.6cm

(鳴き声)

オーシンツクツク



ミンミンゼミ

(大きさ)

6.2cm

(鳴き声)

ミンミン

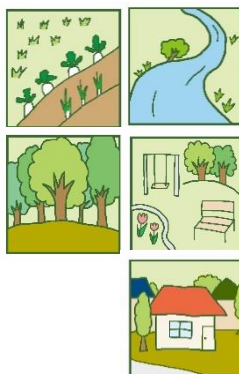
## 36 カマキリのなかま

調査期間 第1回(平成29年7~9月)第2回(平成30年10~12月)第3回(令和2年1~3月)

市内で見つけられるカマキリは、おもに次の4種類です

見つけられる環境

- ・チョウセンカマキリは、うしろばねの根もとにうすい褐色のまだらがあります。草の間などで見られます
- ・オオカマキリは、一番大型で生垣や公園の樹木などで見られます
- ・ハラビロカマキリは、中型で腹のはばが広く、はねの中ほどに白いはん点があります。森林性で木の上などで生活しています
- ・コカマキリは、小型で前あしの内側に白黒の点のようがあります。畑や草地などで見られます



チョウセンカマキリ 6~8cm

オオカマキリ 7~9cm



ハラビロカマキリ 5~7cm

コカマキリ 4.5~6.5cm



### 37 シオカラトンボ(トンボのなかま)

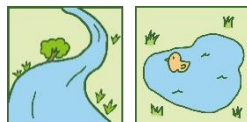
調査期間 第1回(平成29年7~9月)



オス

メス

みつけられる環境



大きさ 5~5.5cm

特徴 成虫は4月から10月に見られます

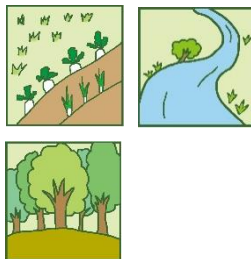
オスは黒くなり白い粉をふきますが、メスは黄緑色で「ムギワラトンボ」と呼ばれます

### 38 ハグロトンボ(カワトンボのなかま)

調査期間 第1回(平成29年7~9月) 第4回(令和2年4~6月)



みつけられる環境



半日かげの用水や池のまわりで見られます

大きさ 4~5.2cm

特徴 成虫は5月から10月に見られます

メスは体色が黒褐色ですが、オスは黒緑色で金属光沢があります



## しな<sup>い</sup>み 市内で見られるおもなトンボ

市内では、次の 27 種類のトンボが見られます

アオイトトンボ、アオモンイトトンボ、アキアカネ、アジアイトンボ、ウスバキトンボ、オオアオイトトンボ、オオシオカラトンボ、オオヤマトンボ、オニヤンマ、キイトンボ、ギンヤンマ、クロイトトンボ、クロスジギンヤンマ、コシアキトンボ、コノシメトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ノシメトンボ、ナツアカネ、ハグロトンボ、マイコアカネ、マユタテアカネ、マルタンヤンマ、ミヤマアカネ、モノサシトンボ、ヤブヤンマ、リスアカネ

オニヤンマ (大きさ 9.5~10cm)



ギンヤンマ (大きさ 9.5~10cm)



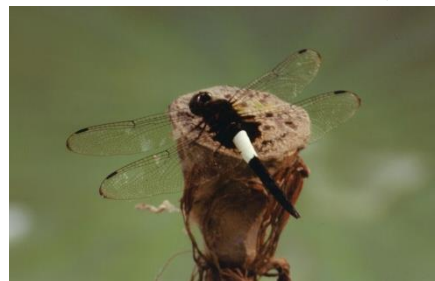
ノシメトンボ (大きさ 4.5cm)



アキアカネ (大きさ 4cm)



コシアキトンボ (大きさ 4~4.5cm)



アオイトトンボ (大きさ 4cm)

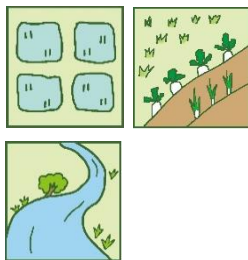


## 39 イナゴのなかま

調査期間 第1回(平成29年7～9月) 第2回(平成30年10～12月)



みつけられる環境



大きさ 2.8cm～4cm(コバネイナゴ) 3～4cm(ハネナガイナゴ)

特徴 8月～11月に見られます

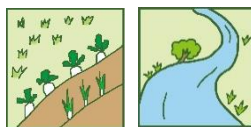
コバネイナゴは水田やヨシのしげった湿地などでよく見かけます

## 40 ショウリョウバッタ(バッタのなかま)

調査期間 第1回(平成29年7～9月) 第2回(平成30年10～12月)



みつけられる環境



大きさ オス4.5cm メス7.5cm

特徴 7月から10月に見られます

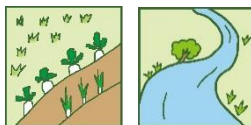
オスは飛ぶときに「チキチキ」と音を出すので「チキチキバッタ」とも呼ばれます

## 41 トノサマバッタ(バッタのなかま)

調査期間 第1回(平成29年7～9月) 第2回(平成30年10～12月)



みつけられる環境



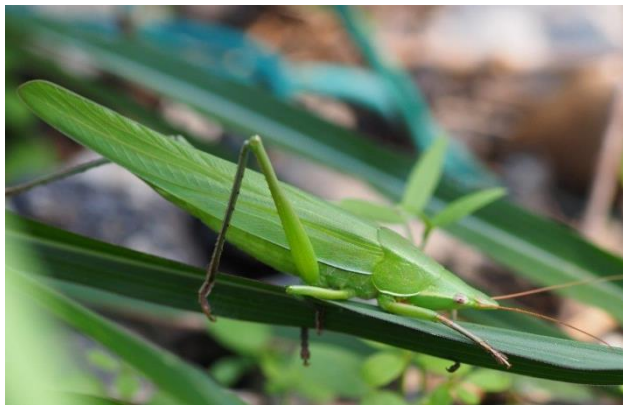
くさち せいそく  
草地に生息します

大きさ 3.5～6.0cm

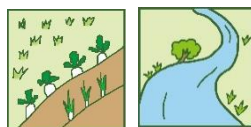
特徴 夏から秋に見られます  
大型のバッタでよく飛びます

## 42 クビキリギス(キリギリスのなかま)

調査期間 第2回(平成30年10～12月) 第4回(令和2年4～6月)



みつけられる環境



大きさ 5.7～6.5cm

特徴 成虫は10月から翌年6月に見られます  
5月頃の蒸し暑い夜、草の上で「ジーン」と鳴き続けます

## 43 ヘビのなかま

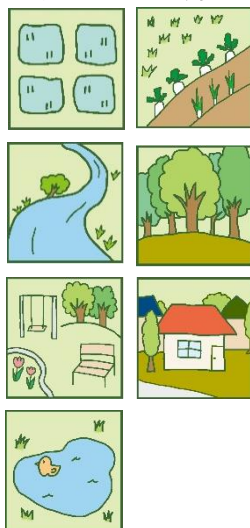
調査期間 第1回(平成29年7~9月)第2回(平成30年10~12月)第4回(令和2年4~6月)

市内では、アオダイショウがよく見られます

シマヘビ、ヤマカガシ、ヒバカリはあまり見られなくなっています

また、マムシも最近ではほとんど発見されていません

見つけられる環境



アオダイショウ 大きさ1~2.5m



シマヘビ 大きさ1~1.5m



ヤマカガシ 大きさ1~1.2m



ヒバカリ 大きさ0.4~0.6m



ニホンマムシ 大きさ0.4~0.8m

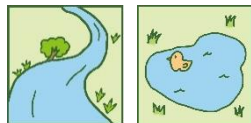


## 44 カメのなかま

調査期間 第1回(平成29年7~9月) 第2回(平成30年10~12月)

ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポンがよく知られていますが、最近ではミドリガメとも呼ばれるミシシippアカミガメやカミツキガメなどの北アメリカからやってきた外来種が、市内でも多く見られるようになっています

みつけられる環境



ミシシippアカミガメ 大きさ12~20cm



ニホンイシガメ 大きさ13~18cm



クサガメ 大きさ12~25cm



ニホンスッポン 大きさ25~30cm



カミツキガメ (特定外来生物) 大きさ40cm

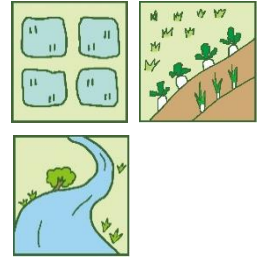


## 45 トウキョウダルマガエル(アカガエルのなかま) ●希少種

調査期間 第1回(平成29年7～9月) 第4回(令和2年4～6月)



み つけられる環境



大きさ 6～9cm

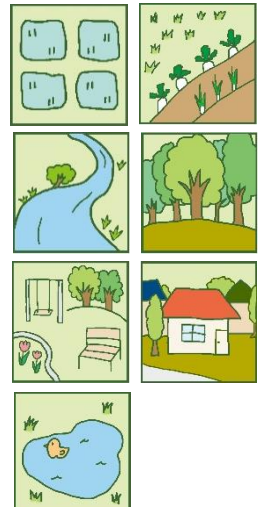
特徴 トノサマガエルに似ていますが、越谷に生息しているのはトウキョウダルマガエルです。指先に吸盤がないので、コンクリートのU字溝に落ちると出られません

## 46 ニホンアマガエル(アマガエルのなかま)

調査期間 第1回(平成29年7～9月) 第2回(平成30年10～12月)



み つけられる環境



大きさ 3～4cm

特徴 低木や草の上でハエ・カ・クモなどを食べます  
体の色をまわりに合わせ黄緑色・灰色・茶色に変えます

## 47 アズマヒキガエル

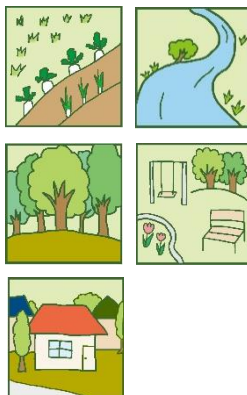
調査期間 第3回(令和2年1～3月) 第4回(令和2年4～6月)



大きさ 4～16.5cm

特徴 体の色は灰褐色で、ずんぐりとした体形をしています  
3月から4月頃、池などにひも状の卵を産みます

みつげられる環境



## 48 メダカ ● 希少種

調査期間 第4回(令和2年4～6月)

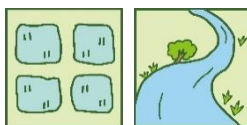


大きさ 2～4cm

特徴 日本産の淡水魚類の中で一番小さい魚です

メスはオスより少し大きく、メスには背びれの切れ込みがないがオスにはあります

みつげられる環境



平地の池や水田などの流れがゆるいところで見られます

## 49 タニシのなかま

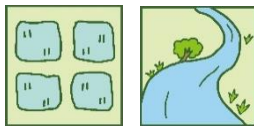
調査期間 第4回(令和2年4~6月)

市内で見られるタニシのなかまは、マルタニシ、ヒメタニシなどです。

みつげられる環境

タニシに似たものにヒメモノアラガイとサカマキガイなどがあります。

タニシのなかまにはフタがあり、モノアラガイやサカマキガイなどにはフタがありません。



(左) マルタニシ 殻高6cm 殻径4.5cm

(右) ヒメタニシ 殻高3.5cm 殻径2.3cm



### タニシに似ているが なかまではないもの

(左) サカマキガイ 殻高1cm 殻径0.5cm

(右) ヒメモノアラガイ 殻高1cm 殻径0.7~0.9cm





## 50 タヌキなど

調査期間 第1回～第4回全て

タヌキはもとも日本にすんでいた動物で、市内の河川や住宅地などでも発見されています。アライグマは外国産ですが、ペットとして飼われていたものが野生化しています。また、ハクビシンも外来生物と考えられています。アライグマやハクビシンは、農作物を食べ荒らしたり、住宅に住みついたりして、人間の生活に被害を及ぼしています。

※アライグマ・ハクビシンの被害がある場合は、環境政策課に相談してください。

**ホンドタヌキ** 大きさ50～60cm

顔の黒いもようがつかっていない。手足は黒い



みつげられる環境



**アライグマ** 大きさ42～60cm

体は灰色で尾はしま模様(特定外来生物)



**ハクビシン** 大きさ50～70cm

体は暗い灰褐色 鼻すじに白い線



## がいらいせいぶつ きしょうしゆ 外来生物と希少種

このガイドブックには、「特定外来生物」と書かれている生きものがいます。アレチウリ(p13)、カミツキガメ(p35)、アライグマ(p39)です。これら以外にも、市内には、ブルーギル、アメリカナマズ、オオキンケイギクなどの特定外来生物がいます。



川の生物調査で採取されたブルーギル



道路の植込に生えていたオオキンケイギク

そもそも「外来生物」とは、どのような生きものなのでしょうか？これは、もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことをいいます。さらに、「特定外来生物」は、農作物を食べ荒らす、毒をもっている、もともといた生物を食べたり餌を奪ったりするなどにより、人間生活や生態系へ被害を及ぼす外来生物として指定されたものを指します。

外来生物の被害を予防するためには、一人ひとりが、外来生物をむやみに持ち込まない（無計画に購入しない）、飼っている外来生物を野外に捨てない、野外の外来生物を他の地域に拡げないという原則を守ることが大切です。

また、「希少種」と書かれている生きもの(p12 キタミソウ、p17 オオバン、p26 ミドリシジミ、p36 トウキョウダルマガエル、p37 メダカ)は、環境の変化などによって数が少なくなっている生きものです。見かけた場合は、捕まえたり、摘み取ったりしないで、そっと見守ってください。



コシガヤホシクサは、もともと越谷で発見されましたが野生のものは絶滅しています

## おんだんか きこうへんどう せいぶつたようせい 温暖化(気候変動)と生物多様性

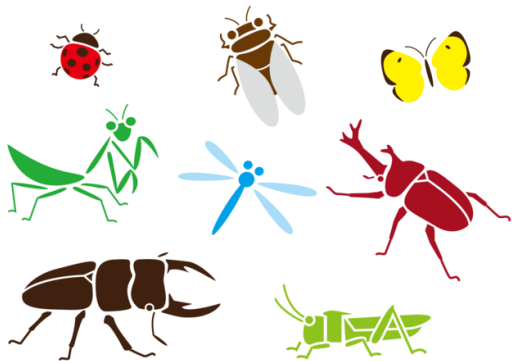
この100年間で日本の平均気温は約1.14℃、埼玉県(熊谷)では約2.9℃高くなっています。越谷でも、以前はもっと暖かい地域にいた生きものが見られるようになりました。このガイドブックに「温暖化指標」と書かれているナガサキアゲハ(p25)、ツマグロヒョウモン(p26)、クマゼミ(p28)などです。



イラスト出展：環境省「地球温暖化パネル」  
全国地球温暖化防止活動推進センター  
ウェブサイト(<http://www.jccca.org/>)より

いま、地球全体で温暖化(気候変動※)が進んでいます。2015年には、産業革命前からの気温上昇を2℃より低くおさえることが、国際的な目標となりました。世界の平均気温が1.5～2.5℃以上上昇すると、動植物種の約20～30%は絶滅するかのうせいが高まるともいわれ、日本をはじめ多くの国々で、これから対策を行っていく必要があります。

皆さんは、「生物多様性」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？生物多様性とは、「生きものたちの豊かな個性とつながり」のことです。地球上には3000万種ともいわれる多様な生きものが支えあって生きています。私たちの暮らしも、多様な生物が関わりあう生態系からの恵みによって支えられています。しかし、温暖化や外来生物、人の生活や開発による影響などによって、いま生物多様性は脅かされています。



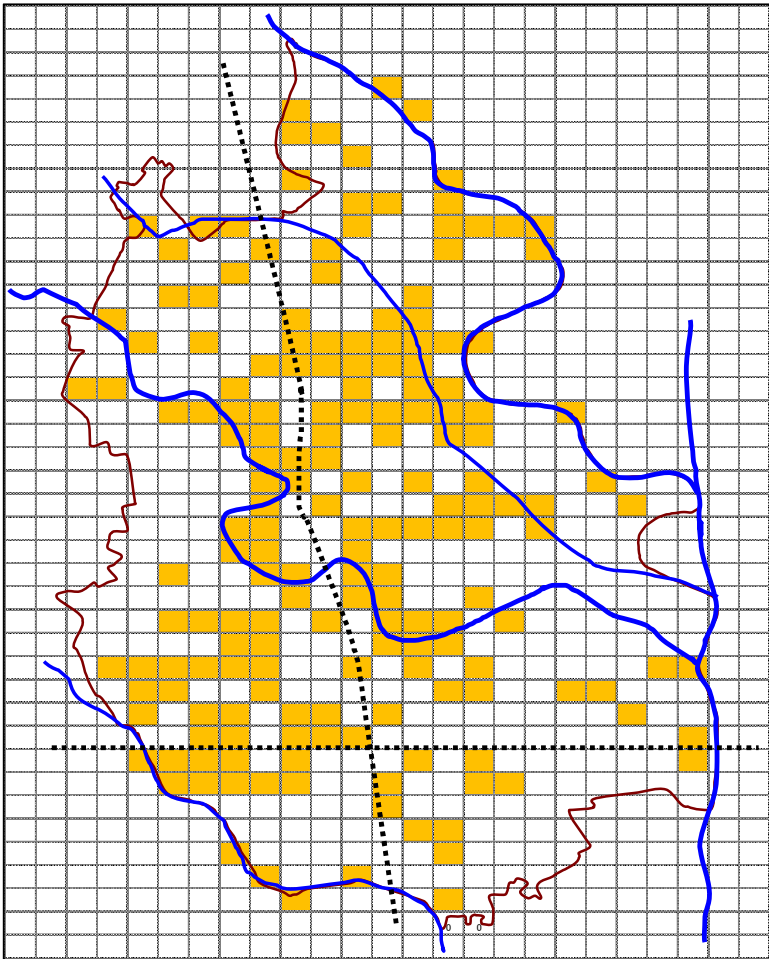
この生きもの調査への参加をきっかけに、皆さんには自然とふれあい、越谷に多くの生きものが暮らしていることを再発見し、それをまわりの人々に伝えていただきたいと思います。そのような行動が、生物多様性を守るにつながっていくのです。

※気候変動：人間活動の影響による気候の変動や変化と、自然変動を含む気候の変化のこと

## ●いままでの「ふるさといきもの調査」の結果

越谷市ではこれまで、5年ごとに合計4回の調査を行ってきました。調べる生きものを30数種類選り出し、市内を570区画（メッシュ）に分け、それぞれの区画での1年間の発見報告を集計していました。なお、個体数は対象とせず、「その区画にいた」ことをまとめているため、メッシュ数や発見がその生きものの生息数と直接結びついてはいません。

発見報告の集計例（第4回調査「ツマグロヒョウモン」） ※色つきが発見された区画



これまでの調査の結果、特にシラコバトは発見数がかなり減っています。それ以外の鳥類はシジュウカラやコゲラなどを中心に、発見数が増えています。また、植物では、ハンノキの発見数が大きく減っています。

調査員総数	平成24年度		平成19年度		平成14年度		平成9年度	
	210	243	248	214	報告メッシュ数	発見報告総数	報告メッシュ数	発見報告総数
指標生物名称	報告メッシュ数	発見報告総数	報告メッシュ数	発見報告総数	報告メッシュ数	発見報告総数	報告メッシュ数	発見報告総数
1、在来タンポポ	232	485	261	592	153	324	153	307
2、セイヨウタンポポ	328	913	346	1085	341	965	404	1146
3、セイタカアワダチソウ	256	702	312	812	321	713	291	666
4、カントウヨメナ	131	300	167	395	224	471	192	406
5、キタミソウ	13	27	22	50	19	42	35	74
6、スミレ	110	209	91	239	—	—	—	—
7、ミソソバ	45	116	69	220	74	129	76	133
8、ヨシ(アシ)	189	549	—	—	204	571	239	539
9、ジュズダマ	76	177	—	—	103	194	85	179
10、ハンノキ	70	190	133	324	87	263	112	337
11、ケヤキ	254	609	304	841	279	752	350	967
12、クヌギ	103	275	126	356	106	310	84	249
13、幹周り2m以上の樹木	166	616	167	503	—	—	—	—
14、シラコバト	20	27	38	62	88	178	140	286
15、キジバト	456	1874	329	1488	288	885	255	686
16、コサギ	260	910	218	773	172	448	171	345
17、カルガモ	271	1349	232	1337	181	700	150	497
18、カワセミ	87	380	41	125	—	—	—	—
19、コゲラ	95	232	52	159	32	74	28	40
20、ツバメ	388	1241	292	970	246	607	195	445
21、ツバメの巣	109	220	101	228	72	118	68	145
22、ハクセキレイ	465	1949	321	1312	253	700	267	776
23、モズ	180	468	89	314	93	182	91	260
24、ツグミ	386	971	217	654	130	264	135	245
25、オオヨシキリ	105	292	78	243	54	107	33	58
26、シジュウカラ	300	1022	153	570	98	171	67	119
27、オナガ	261	795	177	489	145	296	127	232
28、モンシロチョウ	309	1041	280	879	315	807	253	636
29、スズメ	64	118	49	58	45	66	48	57
30、アオスジアゲハ	195	504	125	267	164	321	76	175
31、ナガサキアゲハ	54	95	—	—	—	—	—	—
32、ツマグロヒョウモン	178	426	—	—	—	—	—	—
33、コクワガタ	18	21	25	42	10	10	14	17
34、ヒグラシ	23	30	18	23	17	20	16	19
35、クマゼミ	24	38	14	16	—	—	—	—
36、オオカマキリ	63	117	41	71	40	58	43	89
37、シオカラトンボ	158	388	98	213	144	234	108	241
アサゲ	—	—	7	12	—	—	—	—
ヨモギ	—	—	—	—	353	976	396	1075
クス	—	—	—	—	140	264	143	297
セイヨウオオマルハナバチ	—	—	8	9	—	—	—	—
ミドリシジミ	—	—	—	—	6	7	10	13
アメンボ	—	—	—	—	89	213	81	146
ハイケボタル	—	—	—	—	1	2	1	1
ハグロトンボ	—	—	20	44	—	—	—	—

●調査ノート\*\*\*見つけた生きものや場所を記録しましょう

生きもののなまえ	日にち	場所(住所・目じるし)	環境	数	写真
例) キタミソウ	7/10	葛西用水の中央市民会館前	河川・水路	10 m <sup>2</sup>	<input checked="" type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>

## こんなときは

- ・ 調査員証、ガイドブックをなくしてしまった  
環境政策課に連絡して再発行を受けてください
- ・ 報告用紙がなくなってしまった  
ホームページからダウンロードするか、環境政策課へ連絡してください
- ・ 調べる生きものははっきりしない  
写真を撮って環境政策課へメールなどで送ってください（時間がかかります）
- ・ 調べる生きものについて詳しく知りたい  
埼玉県環境科学国際センター 電話 0480-73-8331（代表）  
埼玉県立川の博物館 電話 048-581-7333（代表）
- ・ いきものログの操作方法がよくわからない  
いきものログ運営事務局 電話 03-6659-3626
- ・ いきものログで「越谷いきもの調査」団体登録するにはどうしたらよいか  
環境政策課に問い合わせてください
- ・ 調査中に怪我をしてしまった  
怪我の程度に合わせ速やかに治療してください。場合によっては医療機関を受診してください。なお、事故の内容によって、全国市長会市民総合賠償補償保険の適用となる場合がありますので、環境政策課にご連絡ください。

### 参考文献

越谷自然探訪Ⅲいきもの発見図鑑（越谷市）  
平成24年度第4次ふるさといきもの調査報告書（越谷市）  
原色日本樹木図鑑（保育社）  
日本の樹木 上（小学館）  
日本の野草 秋（学習研究社）  
日本の野草 春（学習研究社）  
野鳥観察図鑑（成美堂出版）  
フィールドガイド日本の野鳥（日本野鳥の会）  
埼玉いきもの図鑑（メイツ出版）  
昆虫の図鑑（小学館）  
決定版日本の両生爬虫類（平凡社）  
日本の淡水魚改訂版（山と溪谷社）  
ため池と水田の生き物図鑑動物編（トンボ出版）